

JECK 第4回 シン

ガーナを駆け巡った2年 (国際調査実施への技術協力)

石井 信行 (JECK会員)

1998年に「ガーナ2000年国際調査技術協力」ということでJICA第一回の公募があり、自分の経験に基づき応募したところ派遣されることになった。この経験とは、総理府統計局の国勢調査では、従来から、350人のキーパンチャー2シフトでも入力時間が4年近くかかり5年毎の調査にデータが古くなるのが問題であった。その解決のため、IBMのマーク読み取装置を2台購入することにより1年未満に短縮できたことである。この方式は今も5年毎に行われる国勢調査に使われている。この35年前の経験をガーナ2000年センサス(国勢調査)に生かすことになった。ガーナでは2000年にセンサスが予定されたが、国会議員のなかには反対があった。そこで統計局総裁(Dr.Oti Boetengはジャーベン州の大酋長兼任)に国会議事堂でプレゼンテーションするよう進言した。その趣旨は全員賛成している「Vision2020」(2020年までに中進国になる)を実現するためには「Census2000」が絶対必要、人口総数、人口分布データが不明では国の施策ができず「Vision2020」を達成できないという論旨でPowerPointのプレゼンテーションを用意した。初めてガーナの国会議事堂でプロジェクターを用いて説得力国会での承認を得た。この結果Questionnaireの作成、Trial Censusの実施、調査員教育の実施などセンサス・プロジェクトの諸作業が大幅に前進した。これ以来、総裁から厚い信任を得て、OMRの選定、プロジェクトの進め方などの相談をうけ、アドバイザーとしての役割を果たした。更にJICAに要請して

JECK会員石井信行氏の発表



いた20台のPCと1台のサーバーが導入され、JICA方式で80名の統計技術者に、Trial Censusのデータを用いて、SPSSという統計パッケージの実践的教育訓練を行うことが出来た。その中から優秀な6名のカウンターパートを選び、最

後まで彼らがグループリーダーとしての役割をはたしてくれた。2000年4月に行われたセンサスは成功裏に2001年1月に仮集計が完成し、私の任期も終了した。

その他アフリカで学んだことは、酋長制度、奴隷博物館、植民地の後遺症など私の好奇心をそそるものが沢山あった。ガーナ人の生存へのエネルギーと一神教(キリスト教、モスラム教)に対する信心深さに圧倒された。ただ仏教の世界観から観れば、湯川博士の指摘の通り一神教の限界、即ち六道(地獄界、餓鬼界、畜生界、修羅界、人界、天上界)の輪廻転生の姿にしか過ぎない。従って一神教を信じるブッシュ大統領はもちろんのことローマ法王さえ口を滑らせ、六道の世界観の中で右往左往している。それに対して仏教ではこの六道に加えて4聖道(声聞界、縁覚界、菩薩界、仏界)の世界がある。そしてこの四聖道では涅槃の境地に達するための(悟りを開く)ための精進がおこなわれている。この世界観を信ずる仏教徒は喜捨により徳を積むという毎日の行いを通して、仏教に関わる僧侶・寺院のシステムを支えている。

国際救助の行き着くところの究極の姿とは……。

一神教を含んだ全世界の人々の心が、いつの日か、涅槃の境地に変わるよう四弘誓願；

衆生無辺誓願度

煩惱無数誓願断

法門無尽誓願学

仏道無上誓願成

以上

知られざるウガンダ(アフリカの真珠)の紹介

JICA個別専門家

ウガンダ国 保健省 医療機器維持管理の2年 安食 和博 (JECK会員)

・ウガンダ共和国はどこ？

ウガンダはアフリカ大陸の頭骸骨の目のような広大な湖であるビクトリア湖の北側に位置し、そこからナイル川が始まる。

面積：24.1万Km²(ほぼ本州大) 陸地面積19.7万Km²、人口：2,780万人(2004年IMF統計)、首都：カンバラ(標高1,312m)、住民：バガンダ族、ランゴ族など約20部族、言語：英語・スワヒリ語・ルダング語など、宗教：キリスト教約6割、伝統宗教約2割、イスラム教約1割、他1割、主食：甘くないバナナを蒸し練った物マトケである。

首都カンバラの町は標高1,400メートルの高知でビクトリア湖北岸に位置する。気候は温暖で1年を通じて過ごしやすく、台風のような嵐はない。一度住むと他の地域には住みたくなくなるようなところである。

・ウガンダの内乱の歴史

1962年英国から独立、63年共和制となる。1963年オボテ首相によるクーデター、1971年アミン將軍によるクーデター、1979年アミン失脚、ルレ大統領(タンザニア支援)、1979年ルレ失脚、ピナサイ大統領、1980年オボテ大統領復帰、1985年オケロ將軍によるクーデター、1986年ムセベニによるクーデター(以後2011年まで大統領、一昨年大統領三選)

そしてウガンダといえばアミン大統領、何と言ってもラストキング・オブ・スコットランドと言う映画で、アジア人(インド系ウガンダ人)を追い出し、30万人を虐殺した実在のアミン大統領を演じるフォレスト・ウィテカーは本年度アカデミー賞主演男優賞、ゴールデン・グローブ賞最優秀主演男優賞を受賞している。(次の映画の公式サイトで内容を見ることができる。) <http://movies.foxjapan.com/lastking/>、イスラム過激派によるエールフランス139便ハイジャック、エンテベ空港での籠城にアミン大統領が支援し、それに対しイスラエル軍による人質奪還のサンダーボルト作戦の成功。

アフリカの地域紛争(冷戦終焉後のもぐら叩きの様な内戦の連鎖)と

領域内の統治を巡る権力間の紛争の連続している。ウガンダの混乱の歴史は次の3キーワードで読み取れる。

- 1.ローカル・リージョナル・グローバルの扮装の重層構造：ソマリア、コンゴ、ルワンダ、ブルンジの内戦と虐殺。(ウガンダ軍はルワンダ・ブルンジ軍と共闘して、反コンゴ軍を支援している。現在でも北東コンゴは彼らの支配区で、そこから上がる鉱物資源を共有している。)
- 2.生業形態の多様性と資源略奪：ウガンダの輸出品コーヒー・紅茶・砂糖・綿花などの農産物(赤道直下で肥沃な土地と水に恵まれているためお茶の葉の収穫は年36回)地域紛争時にはコンゴからの金、希少金属(タンタライトなど)
- 3.国内権力の正当性：ウガンダの4大王族と現政権(ウガンダの4大部族長でそれぞれ王族として宮殿を持ち、現政権が民族の象徴として経済的・政治的支援をしている。)

・ウガンダ国境紛争とカルト集団と安全

反政府勢力：神の抵抗軍、ウガンダ北部を拠点としゲリラ活動をして



JECK会員 安食和博氏(写真中央右)